

友人との距離感 わからなくなった

高1で退学、通信制編入…卒業後も2年間一進一退

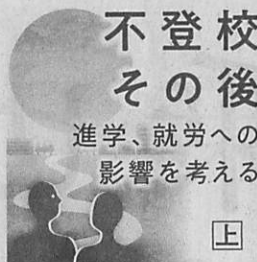


看護師と保健師の資格試験に向けて勉強する大学4年の女性＝東京都内

留学が転機 「それも自分 割り切って」

不登校の小中学生が30万人に迫るなか、多くの当事者が将来への不安に悩んでいます。進学に不利になったり、就労に影響したりすることはないのか。元当事者の経験談と、必要な支援などを上下2回で紹介します。初回は、進学への影響を探ります。

(高浜行人)



不登校のその後
進学、就労への影響を考える

東京都の大学4年の女性(26)は、私立中高一貫校の中学から高校に内部進学する直前の春休み、ツイッター(現X)に自身の写真が投稿されているのを見つけた。容姿をあざわらう文言も書かれていた。

教員に伝えると、投稿した生徒が学校に呼び出された。投稿は削除され、謝罪もあった。だが「裏ではみんな私を馬鹿にしている」としか思えなくなり、高1の10月から学校に行けなくなった。翌年1月、出席日数が足りず退学になった。通信制高校に編入し、

人と関わるのが怖くてほとんど自宅で過ごした。進学先が決まらないまま、卒業した。不登校経験者向けの予備校に入ったが、通ったり、通えなくなったり。2年間は一進一退だった。不登校の期間中に人間関係づくりの経験が途絶え、友人との距離感がわからなくなっていた。

それでも、少しずつ前進した。予備校は勉強をするのも、本を読むのも自由。スタッフに心の内を話すことができ、学ぶ意欲が回復していった。浪人3年目に留学を思い立った。「外国なら人間関係に裏表がないのでは」と考えた。英語の上達をめざしていたことと費用面から行き先はニューヨークランドにした。両親も後押ししてくれた。現地地で知り合った人は

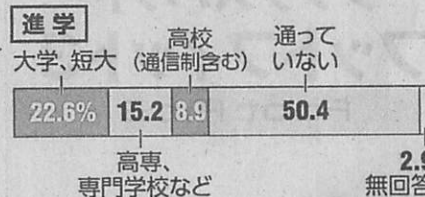
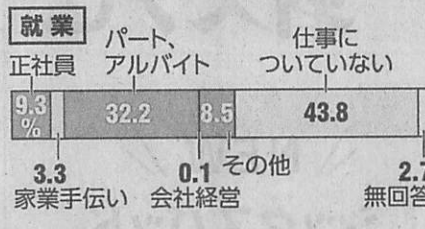
みな、嫌なことは嫌と言う。その関係が心地よかった。不登校の経験から「人に寄り添う医療に携わりたい」との思いがあり、留学経験を経て、海外でも活躍できる看護師になるという目標ができた。帰国後、22歳で都内の私立大看護学部に進み、休むことなく通った。来春、看護師として病院に就職する予定だ。人間関係づくりはいまも得意ではない。でも、いまはこう思える。「それも含めて自分。割り切って頑張ればいい」

保護者の焦り 悪影響が心配

文部科学省が2014年に発表した、中3の時に不登校だった1604人の5年後(20歳ごろ)の状況を尋ねた追跡調査によると、大学や短期大学に通っていた人は22.6%。14年度の「学校基本調査」では全国の高卒生の大学・短大への進学率は56.7%だった。追跡調査では、中学卒業後に人との関わりに不安を感じることがあったかという質問に「おおいにあった」「少しあった」と答えた割合は73.5%に上った。

ただ、奈良女子大大学院の伊藤美奈子教授(学校臨床心理学)は「不登校の経験が、人との関わりやコミュニケーションのスキルに悪影響を及ぼす」と指摘する。保護者が親の会や支援者とならざるだけでも、保護者の精神面が安定したり、助言を受けることができたというメリットがあり、適切な対応につながりやすくなるという。

中3時に不登校だった生徒の5年後の状況



文部科学省の「不登校に関する実態調査」(2014年)から。四捨五入のため就業状況のグラフは計100%にならない

この記事は、朝日新聞デジタルの連載「不登校」その後の内容を再構成したものです。デジタル版の記事はこちらのQRコードから。



履歴書の学歴欄 書く手が止まった

小3で通えなくなり…4浪した大学も中退



小学校の頃から不登校になった男性。休日は大学の勉強に取り組みることが多い＝東京都内

「生きていけるよ」講師の言葉支えに、資格を取得

不登校が将来にどのような影響を及ぼすのか。連載の2回目は、就労を巡る当事者の経験をを通して考えます。専門家は、高校で不登校になり中退を余儀なくされた場合、小中学校段階の不登校より支援が届きにくい現状があると指摘します。



同級生の前で受けた突然の暴力。強いショックを受けた。教員はその後謝罪したが、腫れ物に碰るような扱いになった。居心地が悪く、次第に登校できなくなった。

会社員男性(30)が不登校になったきっかけは、教員の暴力だった。

小1の秋ごろ、父の転勤で関東から関西に引っ越した。初めての転校。クラスの雰囲気はがらりと変わった。

周囲との壁を崩すために「お調子者」になることにした。授業中でも、何かあるとふざけて声を上げた。小3の秋、担任の教員がクラスの騒がしさに声を荒らげた。

「先生が一番うるさいです」。からかうように言う。と、ほおに痛みが走った。教員から平手でたたかれたのだ。

勉強に取り組めるまでに時間はかかったが、4浪の末、中部地方の私立大に合格。22歳になっていた。ところが、数カ月で行けなくなってしまう。一から人間関係を築くことができなかった。「経験値が低かった」。退学し、関西の実家に戻った。

困ったのは23歳の頃。アルバイトをしようと履歴書の学歴欄を埋めようとした。た。勉強に取り組めるまでに時間はかかったが、4浪の末、中部地方の私立大に合格。22歳になっていた。ところが、数カ月で行けなくなってしまう。一から人間関係を築くことができなかった。「経験値が低かった」。退学し、関西の実家に戻った。

て、手が止まった。長い不登校。4浪して入った大学も中退。履歴書を見た採用担当者が「また辞めるんじゃないか」と感じて、書類だけ見てはじくのではと思った。「不登校の『ハンドブック』は一生続くんだ」。重い気持ちになった。

苦しかったが、それでも男性は、絶望まではしていなかった。予備校時代や大学で生まれた学ぶ意欲が、まだ残っていたからだ。社会の片隅でなら生きていける。それが自分の人生だ。不登校の過去を受け入れると、光明が見え始めた。郵便局のアルバイトを始めた。忙しい職場だったが、続けられた。1人で仕事に集中していればよく、人間関係づくりに悩む必要はなかった。

いま、大手通信会社の下請けで正社員として働く。2年前から、理系の有名私立大の夜間コースで学ぶ。「大学を卒業したら、学んだことを生かした仕事をしてみたい」

義務教育後の支援課題 地域に就業体験や電話相談の窓口

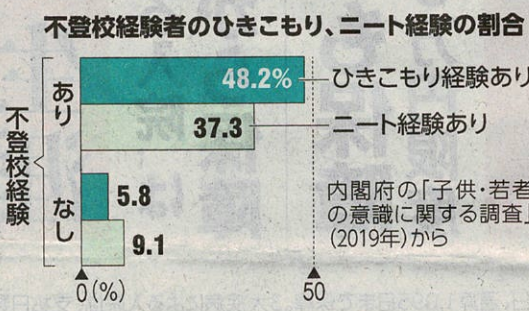
内閣府が2019年、13〜29歳の男女1万人に実施した「子供・若者の意識に関する調査」のデータを元に有識者が分析した結果によると、不登校経験者のうち、ひきこもり経験もあつたのは48.2%。不登校経験がない人の場合は5.8%にとどまった。通学や就労をしていない「ニート」

の経験は、不登校経験なしでは9.1%だったのに対して、不登校経験ありでは37.3%だった。

不登校の「その後」について研究している元養護教諭の尾崎典子・香川大助教は「人と接する経験が不足し、学歴も十分に積み上がらないことで就労に二の足を踏むケースがある」と話す。尾崎助教が調査の一環で聞き取りをした不登校経験者の若者の一人は、小学校から中学にかけて不登校で、高校には入学したものの、数日で行けなくなつて退学した。人と会うのが怖く、中学卒業という学歴に引け目を感じてひきこもり状態になっているという。

背景には環境面の課題があるという。小中学校では、保健室登校や別室登校、教育支援センターとい

った子どもに合った環境がある一方、全日制高校に進学した場合、「欠席数の上限があるため中退につながり、学校とのつながりが切れて支援が届きにくい状況になりがちだ」という。高校や大学を中退・卒業するなどしてニートの状態にある人には、全国に177施設ある厚生労働省委託の支援機関「地域若者サポートステーション」が就業体験や職場実習などを提供している。会話への苦手意識を克服するためのプログラムもあり、希望すれば家庭訪問支援も利用できる。自治体が設置する子ども・若者総合相談センターでは、学校に通っていないかどうかにかかわらず、心の問題や将来への不安など様々なことが相談できる。専用ダイヤルやLINEなどで



た。勉強に取り組めるまでに時間はかかったが、4浪の末、中部地方の私立大に合格。22歳になっていた。ところが、数カ月で行けなくなってしまう。一から人間関係を築くことができなかった。「経験値が低かった」。退学し、関西の実家に戻った。

困ったのは23歳の頃。アルバイトをしようと履歴書の学歴欄を埋めようとした。た。勉強に取り組めるまでに時間はかかったが、4浪の末、中部地方の私立大に合格。22歳になっていた。ところが、数カ月で行けなくなってしまう。一から人間関係を築くことができなかった。「経験値が低かった」。退学し、関西の実家に戻った。

て、手が止まった。長い不登校。4浪して入った大学も中退。履歴書を見た採用担当者が「また辞めるんじゃないか」と感じて、書類だけ見てはじくのではと思った。「不登校の『ハンドブック』は一生続くんだ」。重い気持ちになった。

苦しかったが、それでも男性は、絶望まではしていなかった。予備校時代や大学で生まれた学ぶ意欲が、まだ残っていたからだ。社会の片隅でなら生きていける。それが自分の人生だ。不登校の過去を受け入れると、光明が見え始めた。郵便局のアルバイトを始めた。忙しい職場だったが、続けられた。1人で仕事に集中していればよく、人間関係づくりに悩む必要はなかった。